

館報立科

おかげさまで60号

毎月の発行ということだけでなく、年2回程度のペースで皆さんのお手元へお届けしてきた「館報立科」も発行以来60号となりました。

実は、「館報立科」を公民館で発行する以前から、いわゆる町の広報紙として、「立科時報」が昭和30年5月に立科青年団連合から発行され、昭和40年6月から公民館へ引き継がれ、昭和52年11月に発行された第250号（確認できる資料による）が最後となっているという歴史があります。

その後、9年間の時を経て、公民館が発行人である広報紙「館報立科」が、産声をあげたのが、昭和61年10月で、今回で60号の節目を迎えることができました。

「館報立科」は、町民の皆さんのご協力と館報編集委員（公民館関係職員等）の熱意があって発行されてきたことと思います。

そこで、今回は、公民館活動を陰から支えてきていただいた「公民館本部職員」経験者より、公民館活動の思い出、これからの公民館に期待することなどについて寄稿していただきました。

60号の節目を契機に、気持ちも新たに、町民の皆さんにご協力いただきながら皆さんの思いというものを伝えていける公民館報づくりに努めていきたいと思えます。



公民館報発刊60号記念に当たって

立科町公民館長 荻原 邦久

本公民館報は、昭和六十一年十月五日に第一号を発刊以来今回が記念すべき発刊60号となりました。発刊以来多くの町民の皆さんに公民館事業の報告やお知らせ、活動グループの紹介など掲載し、公民館と町民皆さんとの懸け橋として、大きな役割を果たしてまいりました。現代社会は、少子高齢化の進展や核家族化、夫婦共稼ぎ世帯の増加のほか、長時間労働による遅い帰宅者などにより益々住民間のコミュニケーションが取りにくくなってまいりました。そしてスマートフォン等の普及が拍車をかけております。このようなことから公民館活動も現在は、大きな変換期を迎えると同時に、今後の公民館の果たす役割も益々大きいと思えます。立科町には多くのスポーツ活動や文化活動を行っている個人の方や、グループがありますが、これは立科町にとってはとても大きな財産であります。このような皆さんにご協力いただいて、身近に学べる公民館づくりや、無縁社会にしない地域コミュニティの構築に向け、楽しく気軽に参加できるプログラムを展開して行くことが重要であります。今後

本公民館報は、昭和六十一年十月五日に第一号を発刊以来今回が記念すべき発刊60号となりました。発刊以来多くの町民の皆さんに公民館事業の報告やお知らせ、活動グループの紹介など掲載し、公民館と町民皆さんとの懸け橋として、大きな役割を果たしてまいりました。現代社会は、少子高齢化の進展や核家族化、夫婦共稼ぎ世帯の増加のほか、長時間労働による遅い帰宅者などにより益々住民間のコミュニケーションが取りにくくなってまいりました。そしてスマートフォン等の普及が拍車をかけております。このようなことから公民館活動も現在は、大きな変換期を迎えると同時に、今後の公民館の果たす役割も益々大きいと思えます。立科町には多くのスポーツ活動や文化活動を行っている個人の方や、グループがありますが、これは立科町にとってはとても大きな財産であります。このような皆さんにご協力いただいて、身近に学べる公民館づくりや、無縁社会にしない地域コミュニティの構築に向け、楽しく気軽に参加できるプログラムを展開して行くことが重要であります。今後

